

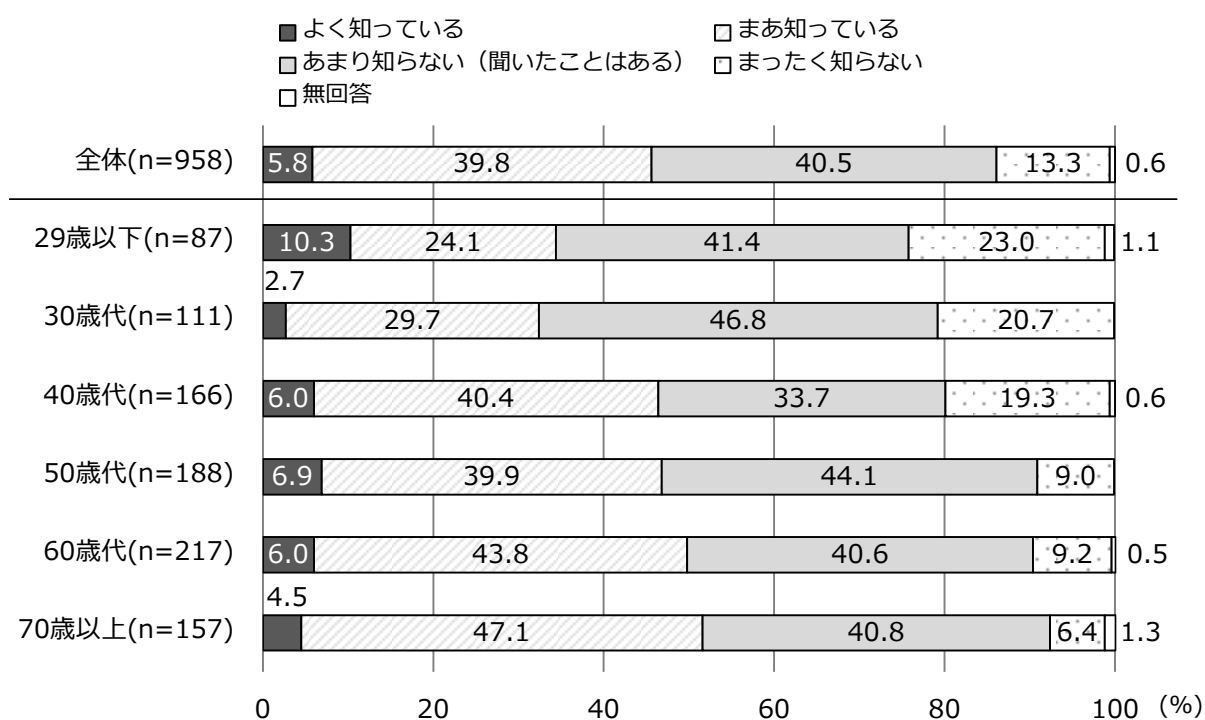
2. 国民スポーツ大会への関与・意識

2.1 大会の認知

「あおり国スポ」についてどの程度知っているかをたずね、全体・年代別に集計した(図表 2-1)。全体では「よく知っている」が 5.8%、「まあ知っている」が 39.8%で、あわせて 45.6%の住民が大会を認知していた。

年代別に「よく知っている」と「まあ知っている」の合計値をみると、29 歳以下では 34.4%、30 歳代では 32.4%とそれぞれ 3 割程度であったのに対して、40 歳代以降では 5 割前後に達した。「まったく知らない」の割合は 29 歳以下～40 歳代では約 2 割であったが、50 歳代以降では 1 割を下回った。

図表 2-1 大会の認知(全体・年代別)



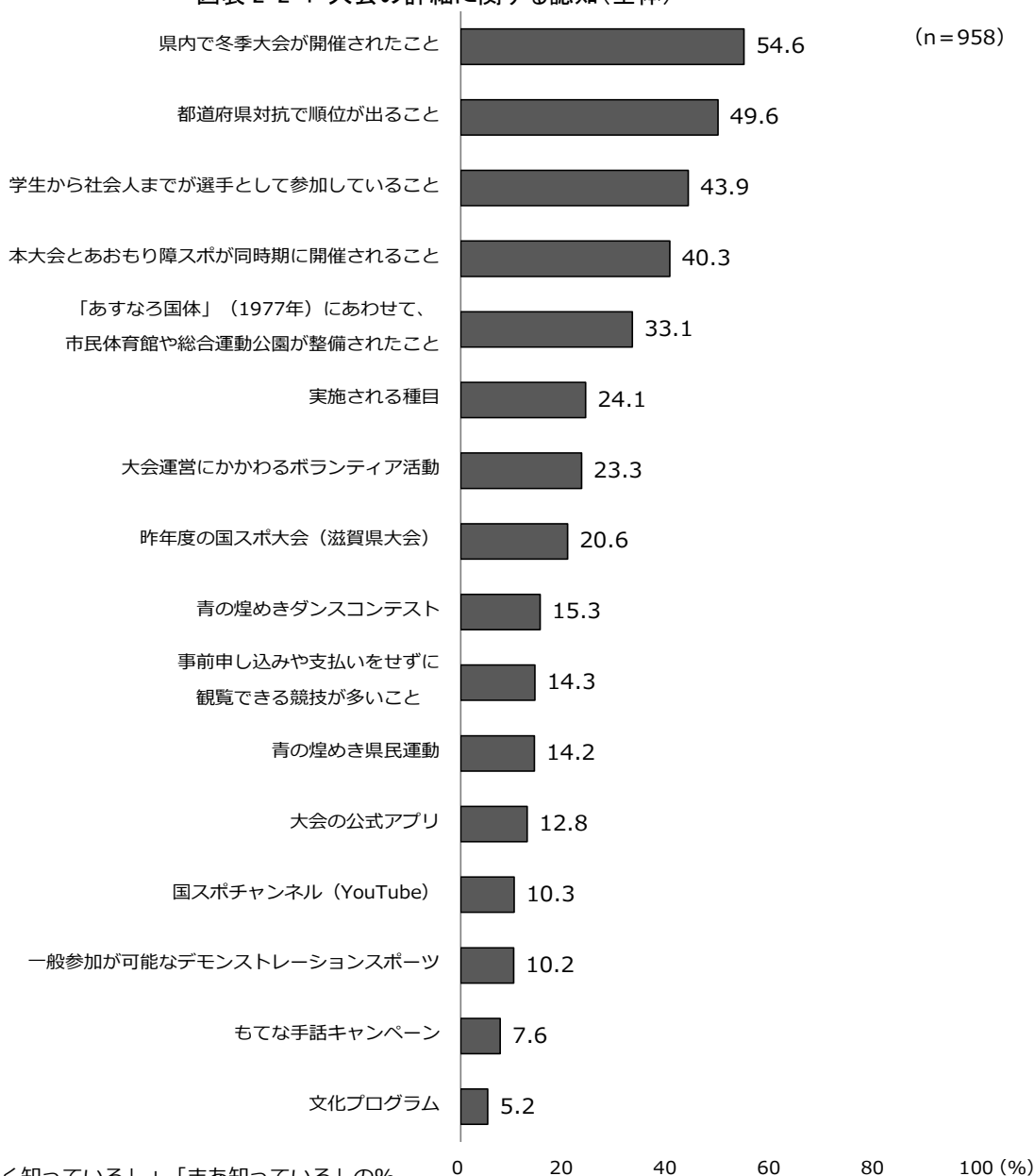
2.2 大会の詳細に関する認知

大会のルールや各種プログラムなどの詳細に関する認知をたずねた。「よく知っている」と「まあ知っている」の合計値をみると、全体では「県内で冬季大会が開催されたこと」が 54.6%と最も高かった(図表 2-2-1)。続いて「都道府県対抗で順位が出ること」49.6%、「学生から社会人までが選手として参加していること」43.9%、「本大会とあおり障スポが同時期に開催されること」40.3%の 3 項目が 4 割を超えた。

過去の大会に関する事項では、「『あすなろ国体』(1977 年)にあわせて、市民体育館や総合運動公園が整備されたこと」が 33.1%、「昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)」が 20.6%であった。また、「実施される種目」は 24.1%、「大会運営にかかわるボランティア活動」は 23.3%と、2 割強が認知していた。

市内・県内で展開されている各種プログラムについては、「青の煌めきダンスコンテスト」15.3%、「青の煌めき県民運動」14.2%、「もてな手話キャンペーン」7.6%、「文化プログラム」5.2%と、1 割前後の認知であった。

図表 2-2-1 大会の詳細に関する認知(全体)



なお、「事前申し込みや支払いをせずに観覧できる競技が多いこと」は、あおもり国スポに限らずこれまでの国民スポーツ大会に共通する仕組みであるが、「知っている」は 14.3%にとどまり、ほかのルールに比べると認知度が低かった。

各項目の認知度には、年代によって差がみられるものも含まれる(図表 2-2-2)。全体の認知が最も高かった「県内で冬季大会が開催されたこと」は、50 歳代 56.4%、60 歳代 66.9%、70 歳以上 61.8%と半数以上が認知していたのに対し、29 歳以下は 42.5%、30 歳代では 39.6%と約 4 割であった。同様に「都道府県対抗で順位が出ること」や「学生から社会人までが選手として参加していること」、「本大会とあおもり障スポが同時期に開催されること」『『あすなろ国体』(1977 年)にあわせて、市民体育館や総合運動公園が整備されたこと」も、50 歳代以降で認知が高い傾向がみられた。また、「昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)」は 70 歳以上で 29.9%と、特に割合が高かった。

一方、若年層の認知が高い項目もみられ、「大会運営にかかわるボランティア活動」は 29 歳以下で 32.2%と、ほかの年代を上回った。また、2025 年度内に動画審査および決勝大会が行われた「青の煌めきダンスコンテスト」の認知度は 29 歳以下 18.3%、30 歳代 24.3%、40 歳代 22.9%であり、50 歳代以降に比べて高かった。このほか、観戦ガイドや競技会場の案内がみられる「大会の公式アプリ」は、40 歳代 16.9%および 50 歳代 16.5%で高かった。

図表 2-2-2 大会の詳細に関する認知(年代別)

	(%)					
	29歳以下 (n=87)	30歳代 (n=111)	40歳代 (n=166)	50歳代 (n=188)	60歳代 (n=217)	70歳以上 (n=157)
県内で冬季大会が開催されたこと	42.5	39.6	46.4	56.4	66.9	61.8
都道府県対抗で順位が出ること	31.0	31.5	43.4	51.6	63.1	57.3
学生から社会人までが選手として参加していること	34.4	22.5	39.1	46.8	55.7	49.7
本大会とあおもり障スポが同時期に開催されること	29.9	36.0	39.1	41.5	46.0	43.3
「あすなろ国体」(1977年)にあわせて、 市民体育館や総合運動公園が整備されたこと	19.5	12.6	18.1	32.9	48.8	49.0
実施される種目	26.4	18.9	23.5	22.4	28.1	26.1
大会運営にかかわるボランティア活動	32.2	20.7	22.3	24.0	21.7	24.9
昨年度の国スポ大会(滋賀県大会)	17.2	10.8	16.2	21.8	22.6	29.9
青の煌めきダンスコンテスト	18.3	24.3	22.9	13.8	9.2	10.9
事前申し込みや支払いをせずに観覧できる競技が多いこと	9.2	9.9	15.0	17.1	16.6	14.0
青の煌めき県民運動	17.2	18.0	14.4	13.3	11.0	16.5
大会の公式アプリ	6.9	9.0	16.9	16.5	11.9	12.1
国スポチャンネル(YouTube)	13.7	9.0	13.8	11.7	7.4	8.9
一般参加が可能なデモンストレーションスポーツ	8.0	8.1	10.2	9.1	11.5	12.7
もてな手話キャンペーン	5.7	5.4	10.2	5.9	6.9	10.8
文化プログラム	5.7	2.7	6.6	4.3	5.6	7.0

注) 「よく知っている」+「まあ知っている」の%。

2.3 冬季大会への関与

「あおもり国スポ冬季大会」への関わりについて、複数回答でたずねた。「インターネット等で観戦した」が5.1%、「現地で観戦した」が1.0%であった(図表2-3-1)。大会の運営に関わる「ボランティア」「競技補助員」「学校のおもてなし活動(花飾り・応援等)」はいずれも1%未満であった。「その他」の具体的な記述には、職場の協賛などがあげられた。なお、冬季大会は八戸市などで開催され、青森市は競技会場となっていなかった事情もあり、「まったく関わりがない」が90.6%を占め、「選手」「指導者(監督・コーチ等)」「演技者」「式典音楽隊(吹奏楽・合唱)」は該当者がいなかった。

冬季大会への関与で最も多かった「インターネット等で観戦した」について、年代別にみると70歳以上が9.6%と最も高く、60歳代6.0%、50歳代4.8%と続き、高齢層を中心に高い傾向がみられた(図表2-3-2)。29歳以下は3.4%、30歳代は4.5%、40歳代は2.4%であった。

図表は割愛するが、この1年間のテレビやインターネットによるスポーツ観戦の有無別に集計すると、観戦経験がある場合は6.7%、ない場合は0.8%であり、普段から観戦をしている群のほうがより国スポ冬季大会を視聴していた傾向が確認できた。

図表 2-3-1 冬季大会への関与(全体)

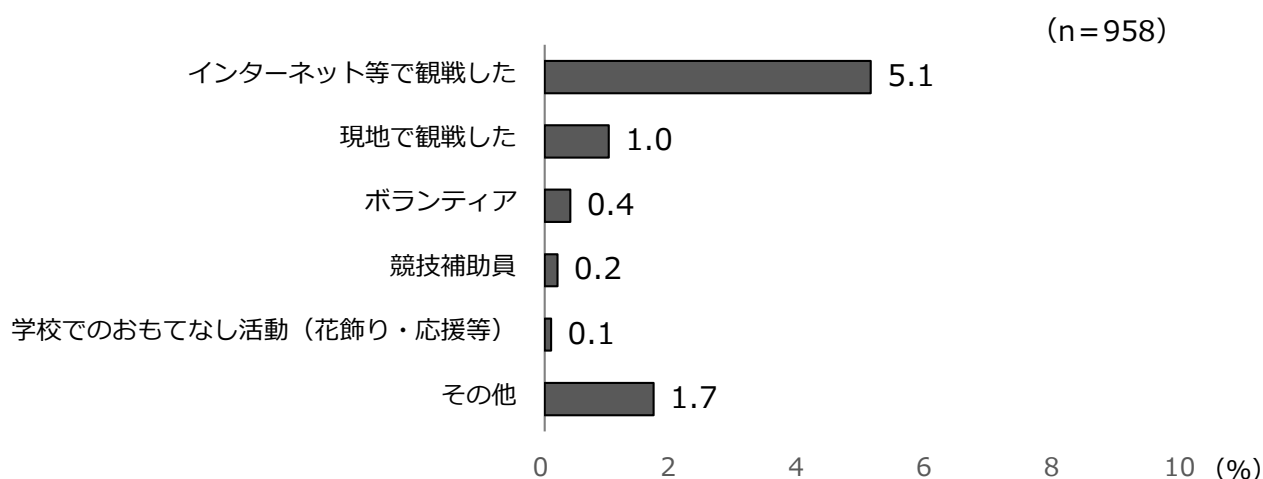
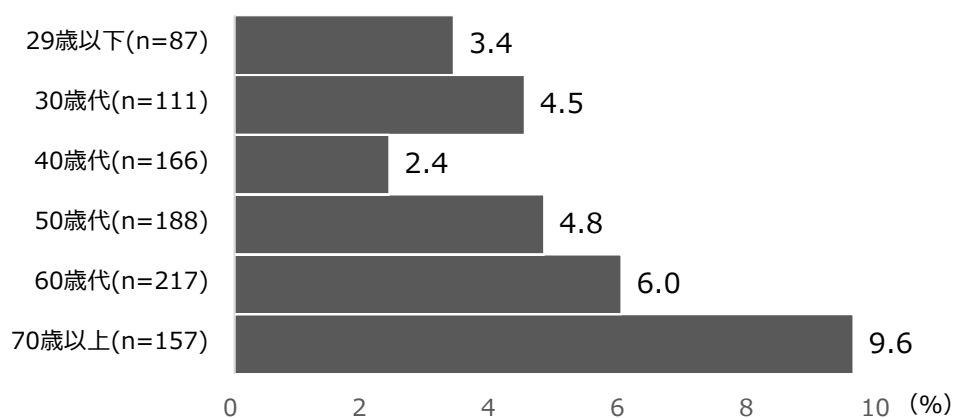


図 2-3-2 冬季大会 インターネット等での観戦率(年代別)



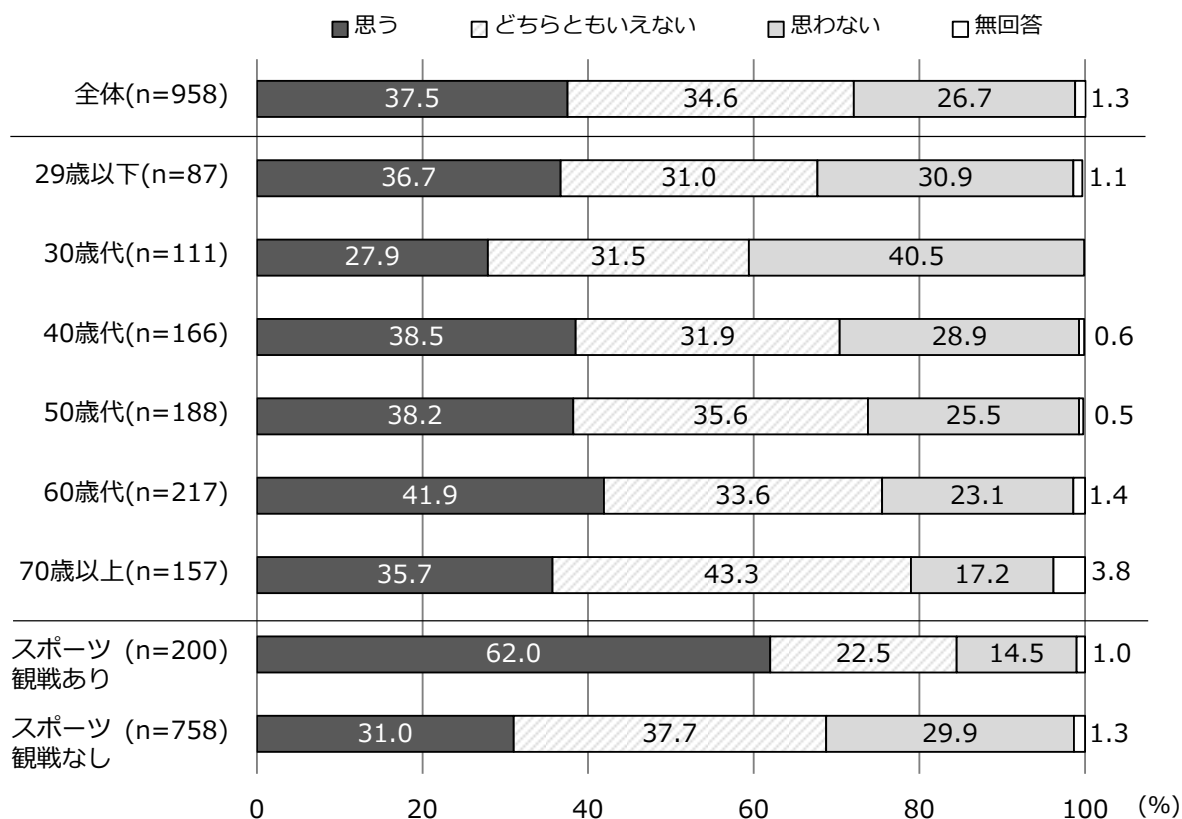
2.4 国スポ本大会・障スポの観戦意向

国スポ本大会(2026年9～10月開催予定)、障スポ(同年10月開催予定)における試合(競技)の観戦意向をたずねた。観戦意向は7段階(1=まったくそう思わない、4=どちらともいえない、7=とてもそう思う)でたずね、1～3を「思わない」、5～7を「思う」として集計した。

国スポ本大会に関しては、全体では「思う」が37.5%、「どちらともいえない」34.6%、「思わない」26.7%であった(図表2-4-1)。年代別にみると、「思う」は30歳代で27.9%と低いものの、ほかの年代はいずれも4割前後であった。「思わない」は29歳以下30.9%、30歳代40.5%、40歳代28.9%が高く、最も低い70歳以上では17.2%と2割を下回った。

過去1年間のスポーツ観戦の有無別に分析すると、「思う」の割合は観戦あり群が62.0%、観戦なし群が31.0%となり、普段からスポーツ観戦をしている住民のほうが国スポ本大会の観戦意向も強い傾向がみられた。

図表 2-4-1 国スポ本大会の観戦意向(全体・年代別・過去1年間のスポーツ観戦有無別)



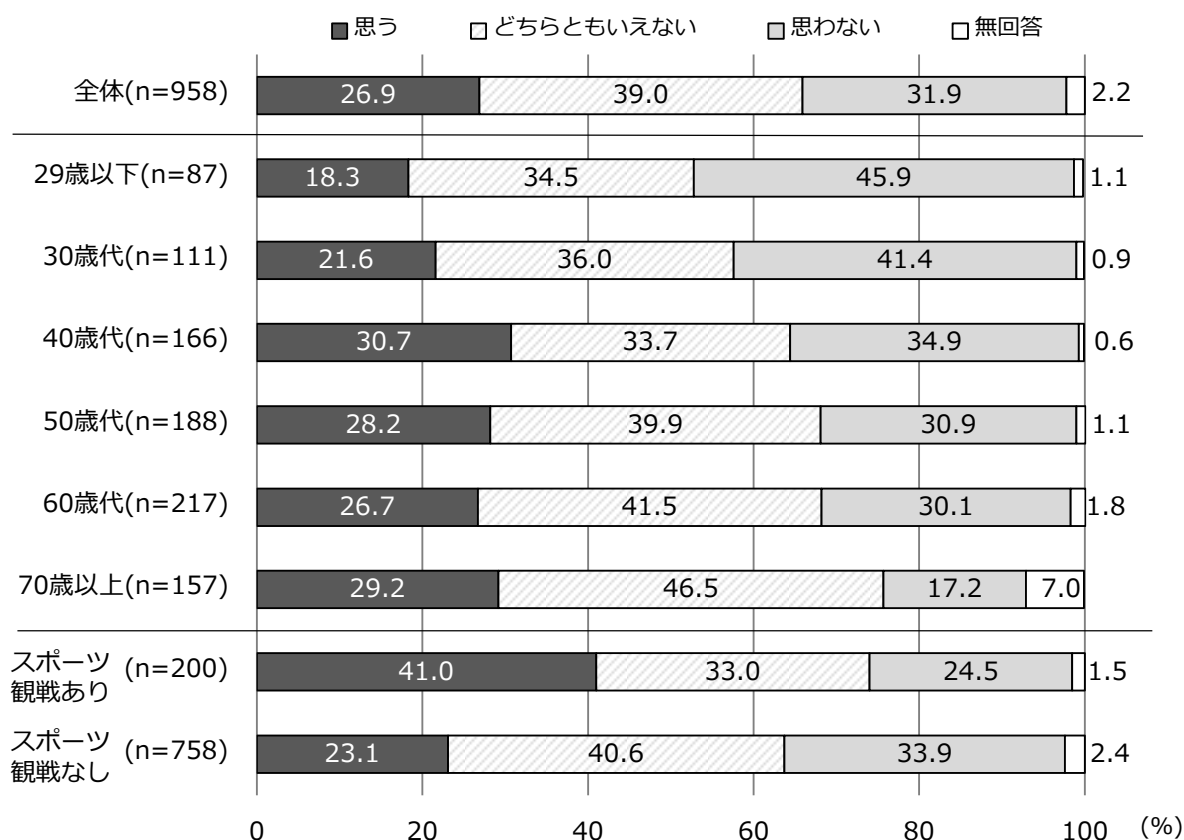
注1) 観戦意向を7段階(1=まったくそう思わない、4=どちらともいえない、7=とてもそう思う)でたずね、1～3を「思わない」、5～7を「思う」として集計した。

注2) 「スポーツ観戦あり」「スポーツ観戦なし」は、過去1年間のスポーツ観戦(あおり国スポは除く)の有無を示す。

障スポについては、全体では「思う」が 26.9%、「どちらともいえない」39.0%、「思わない」31.9%であった（図表 2-4-2）。年代別にみると、「思う」は 29 歳以下と 30 歳代で約 2 割、40 歳代以降では約 3 割であった。「思わない」は 29 歳以下 45.9%、30 歳代 41.4%がほかの年代と比べて高かった。

国スポ本大会と同様、過去 1 年間のスポーツ観戦の有無別に分析すると、「思う」の割合は観戦あり群で 41.0%、観戦なし群で 23.1%と差がみられた。

図表 2-4-2 障スポの観戦意向(全体・年代別・過去 1 年間のスポーツ観戦有無別)



注 1) 観戦意向を 7 段階(1=まったくそう思わない、4=どちらともいえない、7=とてもそう思う)でたずね、1～3 を「思わない」、5～7 を「思う」として集計した。

注 2) 「スポーツ観戦あり」「スポーツ観戦なし」は、過去 1 年間のスポーツ観戦(あおり国スポは除く)の有無を示す。

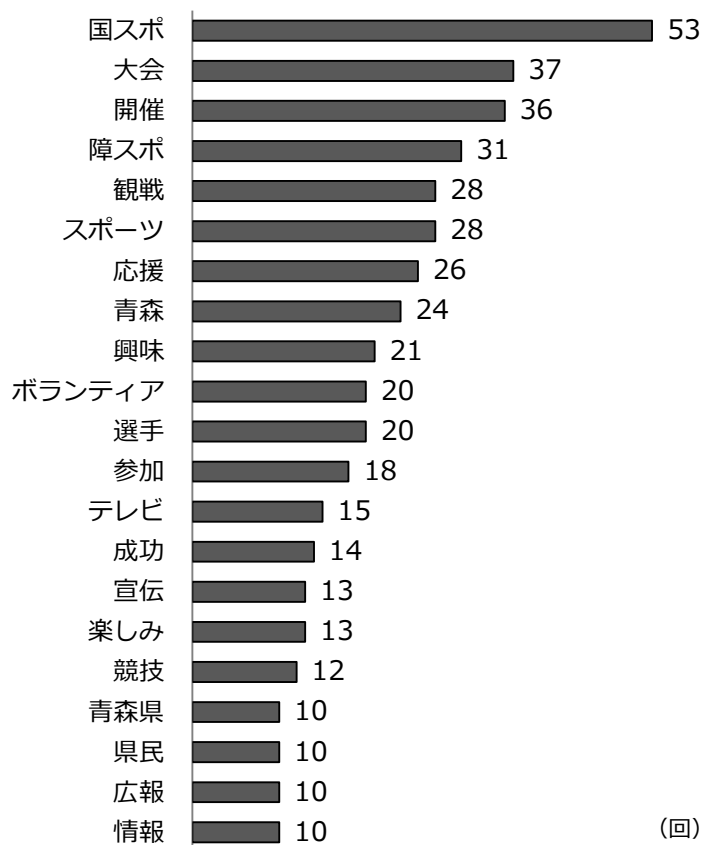
2.5 あおもり国スポ・障スポについての意見

あおもり国スポ・障スポについての意見を自由記述で記入してもらったところ、209 件の具体的な回答がみられた。単語別に出現頻度を算出し、10 回以上確認された名詞を整理した(図表 2-5)。最も多かったのは「国スポ」53 回で、「障スポ」も 31 回出現していた。「国スポ・障スポ」と併記した記述が多くみられたが、「障スポ開催にあわせて町の環境を改善してほしい」「障スポに興味がある」「障スポも国スポと同様に広報してほしい」など、障スポそのものへの期待や関心を示す意見もみられた。

全体的に大会開催に期待する声が多く、「応援」(26 回)では「応援に行きたい」「青森県を応援したい」「自分にできることがあれば応援したい」といった意見がみられ、「成功」(14 回)では大会の成功を願う声、「楽しみ」(13 回)では地元開催や大会による賑わい、競技や観戦を楽しみにしているという声が寄せられた。また、大会への参加・関与に関する意見も多く、「観戦」(28 回)では「観戦したい」という意見に加え、「観戦の方法がわからない」「観戦の案内がほしい」「気軽に観戦できるものなのかわからない」など、観戦に関する情報提供を求める声が多くみられた。「ボランティア」(20 回)でも同様に、参加への関心を示す意見と、募集や申込方法に関する情報を求める意見の双方がみられた。

要望としては周知・広報に関する意見が多く、「宣伝」(13 回)では「もっと宣伝してほしい」、「広報」(10 回)では「もっと広報すべき」「注目されるような広報が必要」など、「情報」(10 回)では「情報がない」「もう少し情報がほしい」といった意見があげられた。「テレビ」(15 回)には「テレビ番組や CM でもっと取り上げてほしい」という広報に関する意見と、「テレビ中継で競技をみられるようにしてほしい」という意見が含まれていた。

図表 2-5 あおもり国スポ・障スポについての意見(名詞の出現頻度)



(回)